

伊方地域における防護措置

避難実施状況（施設敷地緊急事態・10条）（11月29日9時00分現在）

訓練

要避難者	地域名	避難手段確保状況	避難経路の状況	避難先の受入体制	避難先
2. 避難可能な在宅の要避難者	いかた伊方(PAZ、190名)	○ (バス4台(92名) 福祉車両8台(24名) マイカー(74名))	○ 第2・第3経路	○	まさきちよう松前町
	せと瀬戸(PAZ、4名)	○(県防災ヘリ&陸自ヘリ(4名))	○ 孤立地区なので空路	○	まさきちよう松前町
	せと瀬戸(予防避難エリア、52名)	○ (バス2台(34名) 福祉車両2台(4名) マイカー(14名))※	○ みさき三崎港	○	まさきちよう松前町
	みさき三崎(予防避難エリア、112名)	○ (バス3台(72名) 福祉車両4台(10名) マイカー(30名))※	○ みさき三崎港	○	まさきちよう松前町
3. 避難可能な福祉・医療施設入居者(280名)	○ (バス4台(83名) 福祉車両30台(197名))	○ みさき三崎港(151名)	○	まつやまし松山市(7施設) とうおんし東温市(2施設) まさきちよう松前町(2施設)	
4. 学校の児童・生徒(547名)	○ (バス22台(547名))	○ みさき三崎港(297名)	○	まさきちよう松前町	
5. 保育所の乳児・幼児(63名(引き渡し済みの乳幼児を除く))	○ (バス3台(63名))	○ みさき三崎港(26名)	○	まさきちよう松前町	

※予防避難エリア(瀬戸地域・三崎地域)は船舶1隻も使用して避難。避難車両は船舶に乗せられるほか、その他必要な台数は両岸で確保済。船舶1隻は確保済み。

【屋内退避継続に関する情報】

- 高リスク者はつわぶき荘で25名、瀬戸あいじゅで19名、三崎つわぶき荘で14名が屋内退避を実施中(支援者である職員は50名)

【避難先・避難手段・避難状況】

- PAZ(伊方町(伊方地域全域+瀬戸地域の一部))におけるSE要避難者については、松前町ホッケー公園を經由し、松前町へ陸路で避難。
- 国道197号線の分断により計画上の陸路避難が困難な予防避難エリア(瀬戸地域の一部・三崎地域)のSE要避難者については、三崎(みさき)港→松山(まつやま)観光港での海路避難(三机(みつくえ)港は使用不可)
- **SE要避難者等避難状況：SE要避難者等は全員避難完了**
※孤立地区のSE要避難者等も含む。※高リスク者は除く。

	移動方法	屋内退避先の受入体制	屋内退避先
1. 避難の実施により健康リスクが高まる者(含支援者等)	- 移動なし(108名)	-	もともと入居している放射線防護対策施設(11施設中3施設を利用)

【瀬戸地域 足成(あしなる)地区(PAZ内)]※1

▶県道255号線 南側付近において道路の側方流出・亀裂等により通行不可、山間部の迂回路も土砂崩れにより道路が寸断され、**孤立状態(99人)**だったため、県防災ヘリ&陸自ヘリも活用し、足成漁港ヘリポート→伊方中学校グラウンドヘリポート→松前町と、空路と陸路を使用して避難。
▶**SE要避難者は避難完了**。なお、一般住民の避難も開始している(12:30頃、避難完了見込み)。



【伊方地域 田之浦(たのうら)地区]※PAZ内

▶道路の側方流出・亀裂等により通行不可、迂回路もなく**孤立状態(109人)**だったため、田之浦(たのうら)港→八幡浜(やわたはま)港→松前町と、海路と陸路を使用して避難。
▶**SE要避難者は避難完了**。なお、一般住民の避難も完了している。

避難計画の内容(全面緊急事態・15条)

訓練

令和6年愛媛県地域防災計画をもとに作成(一部緊急時対応の数値等を使用)

[基本的考え方]

1. PAZ及び予防避難エリア(伊方町全域(伊方地域+瀬戸地域+三崎地域))の住民等(SE要避難者等を除く)は避難先へ移動。
2. 予防避難エリアを除くUPZ(八幡浜市全域+大洲市の一部+西予市の一部+宇和島市の一部+伊予市の一部+内子町の一部+上関町の一部)の住民は屋内退避を実施。

[計画上の数]

1. PAZ及び予防避難エリアの住民(伊方町)

※愛媛県に確認した数値。人数にはマイカー避難者を含む。

地域名	対象者 (SE要避難者を除く)	必要車両	避難先
いかた 伊方(PAZ)	3,218名	バス:3台	まさきちょう 松前町
せと 瀬戸(PAZ)	106名	バス:4台	まさきちょう 松前町
せと 瀬戸(予防避難 エリア)	1,005名	バス:17台	まさきちょう 松前町
みさき 三崎(予防避難 エリア)	1,707名	バス:4台	まさきちょう 松前町
合計	6,036名	バス:28台	

2. UPZ(予防避難エリアを除く)の住民

市町村	屋内退避実施対象者
八幡浜市(やわたはまし)	30,345名
大洲市(おおずし)	37,040名
西予市(せいよし)	25,462名
宇和島市(うわじまし)	3,412名
伊予市(いよし)	597名
内子町(うちこちょう)	126名
上関町(かみのせきちょう)	18名
合計	97,000名



PAZ及び予防避難エリアの住民(伊方町)の避難経路

- 【第1避難経路】 国道197号→国道378号→国道56号
 - 【第2避難経路】 国道197号→国道56号
 - 【第3避難経路】 国道197号→高速道路→国道56号
- ※国道197号の一部又は全部が利用できない場合、海路や空路により避難。
 ※国道197号が利用できないかつ海路による避難も空路による避難もできない場合、もしくは放射性物質放出のリスクが高まった場合、屋内退避。

調整状況（全面緊急事態・15条）（11月29日9時00分現在）

訓練

1. PAZ住民・予防避難エリア住民(SE要避難者を除く)の避難に係る調整状況

地区名	車両・船舶の確保状況	避難先までの移動経路	避難先の受入体制	避難先
いかた伊方 (PAZ、3,218名)	○ バス3台(84名) マイカー(3134名)	○	○	いまばりし今治市に変更
せと瀬戸 (PAZ、106名)	○ バス4台(96名) マイカー(10名)	○	○	いまばりし今治市に変更
せと瀬戸 (予防避難エリア、1,005名)	○ バス17台(487名) マイカー(518名) 船舶2隻 ※	○ みさき三崎港・ やわたはま八幡浜港 経由	○	まさきちょう松前町
みさき三崎 (予防避難エリア、1,707名)	○ バス4台(105名) マイカー(1602名) 船舶2隻 ※	○ みさき三崎港・ さかのせき佐賀関港等 経由	○	大分県(別府市・大分市)に変更

※予防避難エリア(瀬戸地域・三崎地域)は船舶も使用して避難。避難車両は船舶に乗せられるほか、その他必要な台数は両岸で確保済。船舶4隻も確保済み。

2. UPZ住民の状況(屋内退避実施対象者)

市町村	屋内退避実施対象者
八幡浜市(やわたはまし)	30,345名
大洲市(おおずし)	37,040名
西予市(せいよし)	25,462名
宇和島市(うわじまし)	3,412名
伊予市(いよし)	597名
内子町(うちこちょう)	126名
上関町(かみのせきちょう)	18名
合計	97,000名

【屋内退避継続に関する情報】

- UPZ内の建物被害(全倒壊数・半倒壊数:多数)
- UPZ内6,000戸(八幡浜市(やわたはまし)3,300戸、大洲市(おおずし)900戸、伊予市(いよし)1,800戸)において停電が発生。
- 倒壊等により自宅で屋内退避が困難な住民は近隣の避難所等で屋内退避。



さかのせきこう べっぷこう
大分県(佐賀関港・別府港)

調整後の避難経路

PAZの避難経路

- 国道197号→国道56号→避難経路所(松前町(まさきちょう)ホッケー公園)→今治市(いまばりし)
- 国道197号→高速道路→国道56号→避難経路所(松前町(まさきちょう)ホッケー公園)→今治市(いまばりし)

予防避難エリアの避難経路

- 一時集結所(三崎小中学校体育館・三崎総合体育館)→三崎港→八幡浜港・佐賀関港・別府港→松前町・大分県

【避難先・避難手段・避難状況】

- 伊方町(いかたちょう)のPAZ内(伊方地域+瀬戸地域の一部)の一般住民は、松前町(まさきちょう)が液化化により一部避難受入不可であるため、第2避難先の今治市(いまばりし)へ陸路で避難。
- 伊方町(いかたちょう)の予防避難エリア(瀬戸地域の一部)の一般住民は三崎港(みさきこう)から海路で八幡浜港へ向かい、その後陸路で松前町へ避難。
- 伊方町(いかたちょう)の予防避難エリア(三崎地域)の一般住民は三崎港(みさきこう)から海路で大分県(佐賀関港(さかのせきこう)・別府港(べっぷこう))へ避難。最終避難先は大分市と別府市。
- 安定ヨウ素剤を携行していない者に対して、緊急配布場所(一時集結所)にて緊急配布を実施。
- 予防避難エリアを除くUPZ(八幡浜市全域+大洲市の一部+西予市の一部+宇和島市の一部+伊予市の一部+内子町の一部+上関町の一部)においては、屋内退避を実施。